

音楽科

単元名 リズムの特徴を表現しよう

～ボディパーカッション～

単元の目標

高等部 金森 光紀

- ・曲に合わせて、簡単なリズム譜を見たりして手を叩く、足を踏み鳴らすなどのボディパーカッションをすることができる。(知識・技能)
- ・音符を組み合わせて簡単なリズムを考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・簡単なリズム譜に合わせて体のどの部位を叩くかなどを考え、自分なりのボディパーカッションで発表することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・進んで自分なりのリズムや叩く部位を考え、友達の考えたボディパーカッションをやってみたり、感想を伝え合ったりすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

プログラミング教育の目標

- ・「ロイロノート」の操作方法や使い方が分かる。(知識・技能)
- ・「ロイロノート」を操作して、イメージしたリズムになるように音符や休符の描かれたカードの組み合わせを考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・友達や教師のボディパーカッションを見て、「ロイロノート」を手掛かりに音符や休符の組み合わせを考えようとするすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

学習グループの実態について

- ・高等部1～3年生までの11名2グループが月曜日と水曜日にそれぞれ学習に取り組んでいる。
- ・グループ内の生徒の実態は様々で、3名から4名の実態に応じた3グループに分かれてボディパーカッションに取り組んでいる。
- ・ロイロノートを使って自分なりのリズムと振り付けを考えるグループ(A)、教師の用意したリズム譜に合わせて振り付けを考えるグループ(B)、教師の用意した四分音符、四分休符のみのリズム譜に合わせて振り付けを考えるグループ(C)の3グループに分かれて学習に取り組んだ。

指導計画 全7時間

第1次	1時間	・楽譜を見ながら、ボディパーカッションをやってみよう
第2次	2時間	・振り付けを考えて、ボディパーカッションを発表しよう
第3次	4時間	・リズムと振り付けを考えて、ボディパーカッションを発表しよう(A) ・振り付けを考えて、ボディパーカッションを発表しよう(B、C)

※本時4/7

※第2、3次では、1時間で叩く部位を考えてリズム練習をし、次時で曲に合わせた練習、発表というサイクルで取り組んだ。本時はリズムと叩く部位を考える場面である。

教材・授業の様子

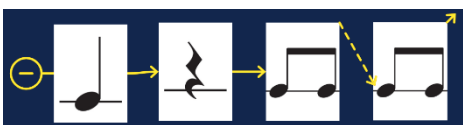
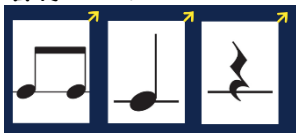
ロイノート SCHOOL



【ロイノート・スクール】

ロイノート・スクールは、自分の思考をまとめ、発表することができるアプリである。本単元では、第3次にAグループの生徒が自分なりのリズムを考えたり、ボディパーカッションで叩く部位を考えたりするときに使用した。最初に教師がロイノートでのリズム作りの見本をし、その後生徒がそれぞれ活動に取り組んだ。

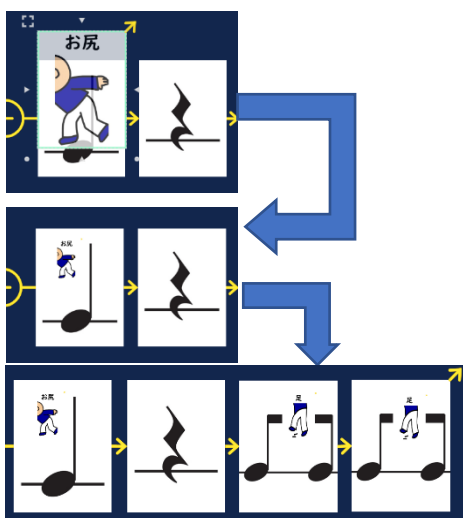
音符カード



動作カード



動作カードを音符カードに入れる



【音符カードでリズム作り】

ロイノートでは、まずリズムを作る。今回は、四分音符、四分休符、八分音符（八分音符が二つ連なったもの）の音符カードを使ってリズム作りに取り組んだ。つなげるカードは4つまで、いくつ作ってもよいこととした。ロイノートの資料箱から音符カードを取り出し、カード同士をつなげたり、並び替えたりして、自分なりのリズムを考えるようにした。作ったリズムは、教師に提出し、モニターに映してグループ内で発表したり、みんなで友達の作ったリズムを手拍子でやってみたりして、共有を図った。

【動作カードを入れて、ボディパーカッションを考える】

リズムを作った後、次にボディパーカッションで体のどの部位を叩くのかを考えた。動作カードは、音符カードと同じように、資料箱から自分の好きなものを取り出して使うようにした。ロイノートでは、カードとカードを重ねると重ねたカードを小さくして入れることができる。ここでは、音符カードに動作カードを重ねることで音符カードの中に動作カードを入れてボディパーカッションを考えるようにした。出来上がったものは、改めて教師に提出し、リズムを考えたと同じように、グループ内で発表し合った。

次の授業では、生徒たちが考えたリズムとボディパーカッションをつなげて4小節のリズム譜にし、曲に合わせてリズムを繰り返すことでボディパーカッションの練習をしたり、発表したりする。

【発表・振り返りの様子】

前時で生徒たちが考えた4小節のリズムとボディパーカッションを曲に合わせてグループで練習し、全体の前で発表を行う。曲は、生徒から希望を聞き、踊りやすいテンポの曲を教師が選んだ。リズム譜を見て踊ることが難しい生徒向けに教師が見本をするビデオを用意したり、教師がリズム譜を指し示すことで、リズムと叩く部位に注目を促したりして練習や発表を行った。

振り返りでは、ボディパーカッションをやった感想や他のグループの発表を見た感想を発表し合った。



発表

振り返り



授業の流れ 4/7時 ※ここでは、Aグループ(ロイロノート活用)の授業の流れを示す。

学習活動(●予想される生徒の発言)	指導上の留意点
①本時の学習の内容と目標を聞く。 ●どんな動きのボディパーカッションにしようかな。 ●ちゃんと踊れるかな。	●本時の目標は「自分なりのリズムや叩く部位を考えてみよう」と提示する。
②叩く動作の確認をする。 ●「お腹を叩く」は面白そうだ! ●「お尻を叩く」は少し恥ずかしいな。	●本時では、手拍子、足踏み、お腹を叩く、お尻を叩くの4種類とする。単元が進む中で少しずつ動作を増やしていく。 ●動作カードには動作をイメージしやすいようにイラストを添える。
③ロイロノートで自分なりのリズム作りをする。 ●「ウン、タン、ウン、タタ」のリズムにしようかな。 ●あまり難しくならないようにしよう。	●ロイロノートでの操作の仕方が分かるように、使い方をモニターで映しながら説明する。 ●活動の様子を見ながら、適宜操作のアドバイスをする。
④考えたリズムをグループ内で発表する。 ●みんなはどんなリズムを考えたのかな。 ●〇〇さんのリズムは面白そうだな。	●発表の時は、どのような思いで作ったのかを聞いたり、見ている生徒には感想を聞いたりする。
⑤リズムに合わせて叩く部位を考える。 ●ここには、この動きを合わせてみよう。 ●同じ動きを繰り返し入れてみよう。	●活動の様子を見ながら、考えたボディパーカッションをやってみるように促して、実際にできるかどうか生徒と一緒に確認する。
⑥出来上がった振り付けを発表したり、みんなでやってみたりする。 ●うまくできそうだ。 ●曲に合わせてやったらどうなるのか楽しみだな。	●自分の考えたリズムのボディパーカッションを発表したり、友達の考えたリズムのボディパーカッションをやってみたりし、感想やどのようなことを考えながらリズムを作ったのかを聞く。

単元の評価

本単元では、第1次、第2次と単元を進める中で少しずつ活動の幅を広げ、第3次でリズムと叩く部位を考えて発表するようにした。第1次では、YouTubeでボディパーカッションの動画を視聴したり、教師の考えたボディパーカッションで体験したりして今後の活動のイメージや見通しをもてるようにした。

第2次では、リズム譜を見て、「タン、ウン、タタ」という言葉で言ったり、手拍子でやってみたりして、譜面に注目する姿や正しいリズムで叩こうとする姿が見られた。また、自分で手を叩いたり、足踏みをしたりして動作カードを並べ替え、どのようなボディパーカッションにしようか考える生徒の姿も見られた。

第3次では、Aグループはリズム作りにも取り組み、前次でも見られたように手を叩いてリズムを確認しながら組み合わせを考える姿が見られた。B、Cグループは、前次に引き続き教師が用意したリズム譜に合わせて叩く部位を考えながら、叩く部位の種類が増えたことで、新しい動きを多く取り入れようとする生徒の姿も見られた。

振り返りでは、自分がやってみて「間違えずにできた」、「途中間違えたけど、達成感があった。」という感想を発表したり、他のグループの発表を見て、「お尻を叩いているのが面白かった」と発表したりする姿が見られた。

プログラミング教育の評価

ロイロノートを使ったリズム作りでは、3種類の音符を組み合わせる、つなげるのは4つまで、いくつ作ってもよいというルールで行った。どのようにリズムを作るのかは、生徒それぞれに自分なりに考えている姿が見られた。音符を3種類とも使おうとしたり、発表の時に間違えずにやりたいからと自分で手拍子をしてできるかどうかを確認しながら考えたり、「ウン、タン、ウン、タタ」のリズムにしようとしてリズムを声に出してから音符を組み合わせたりする姿が見られた。また、考えたリズムを提出し、全員で確認したときに、偶然同じリズムを考えていたことが分かった時、「ちょっと変えてみます。」と改めて別のリズムを考えて提出し直す生徒の姿も見られた。

プログラミング教育実践の流れとポイント

① 十分な体験や操作活動

- ・第1次、第2次で、様々な譜面でリズム打ちをしたり、叩く部位の組み合わせを考えたりする。

② 目的の理解

- ・「自分なりのリズムや叩く部位を考えてみよう」

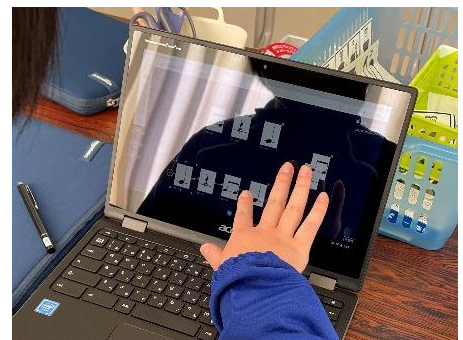
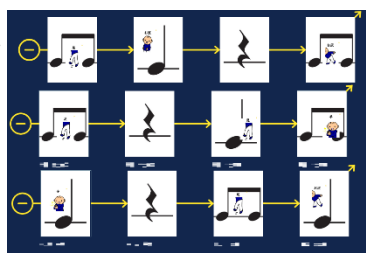
③ 一連の動作や活動の予測

- ・リズムを「ウン、タン、ウン、タタ」などと言葉にしてみたり、手拍子をしてみたりして自分にできるかどうかを確認して、リズムや叩く部位の組み合わせを考える。



④ 命令への置き換え

- ・音符カードを並び替えたり、音符カードに動作カードを挿入したりして、イメージしたリズムやボディパーカッションになるように組み合わせる。



⑤ 実行

- ・考えたボディパーカッションをグループの友達の前で発表したり、グループで一緒にやってみたりする。

